

OneGuideを用いてインプラントを埋入し、同時に骨と軟組織の造成を行い即時にプロビジョナルクラウンを装着し、インプラント周囲組織の退縮を最小限に抑えた症例報告

神奈川県横浜市戸塚区上倉田町769-16
医療法人社団 横山歯科医院
横山 知芳



Introduction

患者情報
年齢・性別: 43歳・女性
主訴: 右上前歯が動く、臭う

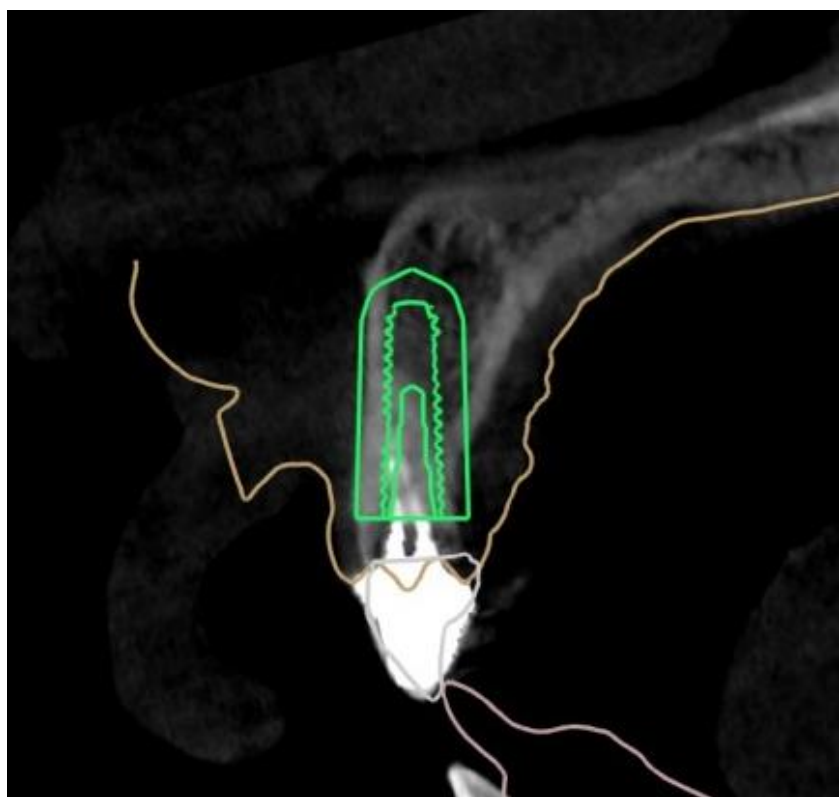
術前のX線写真より、右上2番の骨縁下カリエスと根尖部透過像を認め、抜歯が妥当と判断した。
患者は前歯部インプラント治療を希望された。

Purpose

CT写真より唇側骨のボリューム不足と軟組織のボリューム不足が確認できる。
OneGuideによる埋入ポジションの設計をし、十分に初期固定が取れることを予測できたので抜歯即時埋入とし、事前にプロビジョナルクラウンを作成し即時に装着する計画とした。

Materials & Methods

唇側骨を可及的に保存する目的で愛護的に抜歯し(図1, 2)、抜歯窩を徹底的に搔把、洗浄をしたのちにOneGuideを用いてドリリングし、フィクスチャーを埋入する(図3)。ISQ値をHIOSEN社 IS3CHECKER(図4)でISQ値を測定後、即時荷重を可能としたため事前に作製しておいたプロビジョナルクラウンを試適し適合を確認し外す(図5)。
適合に問題ないことを確認し、唇側に骨補填材と結合組織を入れるスペースを作るために唇側歯肉をパウチ状に全層弁を形成し、テンションフリーにする(図6)。
次に、高さのあるヒーリングアバットメントを装着し、OSSTEM社 A-Ossで作製したAFGを唇側に填入し(図7, 8)、ヒーリングアバットメントを外して再びプロビジョナルクラウンを装着したのちに、口蓋より採取したCTGを移植して吸収性の縫合糸で懸垂縫合にする(図9、10、11)。



インプラント 情報		
インプラントの位置 (FDI)	12	
製作	Osstem	
タイプ	TSIII Mini 3.5x13.0	
オーダー番号	TSM3513S	
長さ, mm	13	
直径 (Ø), mm	3.5	
カラー	Yellow	
安全ゾーン「先端距離」	2.0	
安全ゾーン「半径距離」	1.5	



図1



図2

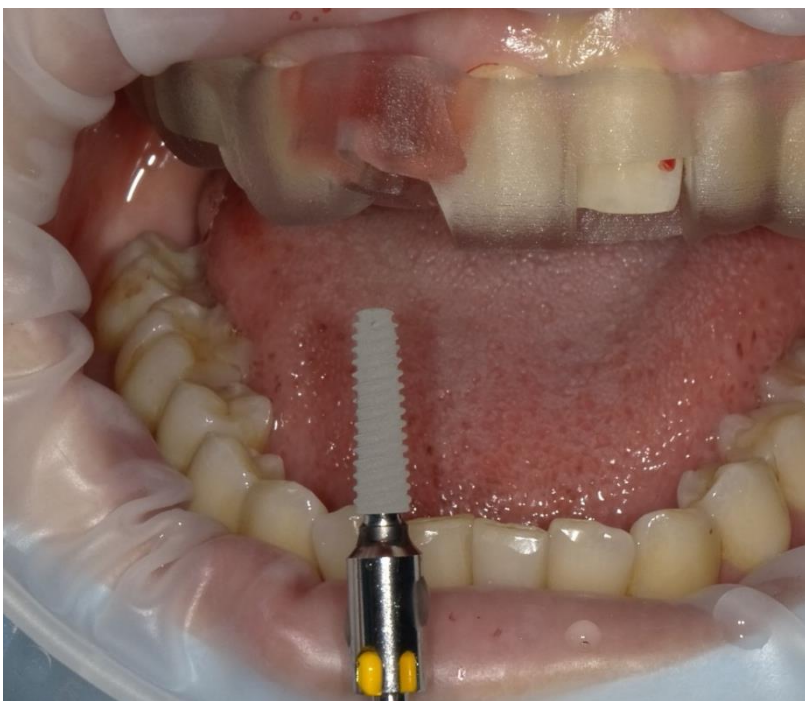


図3



図4



図5

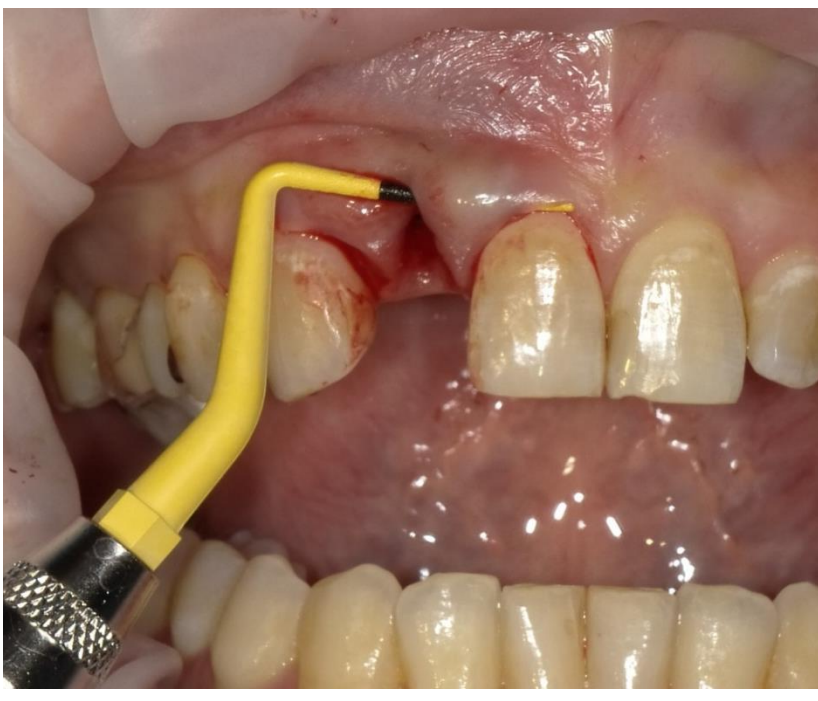


図6



図7



図8



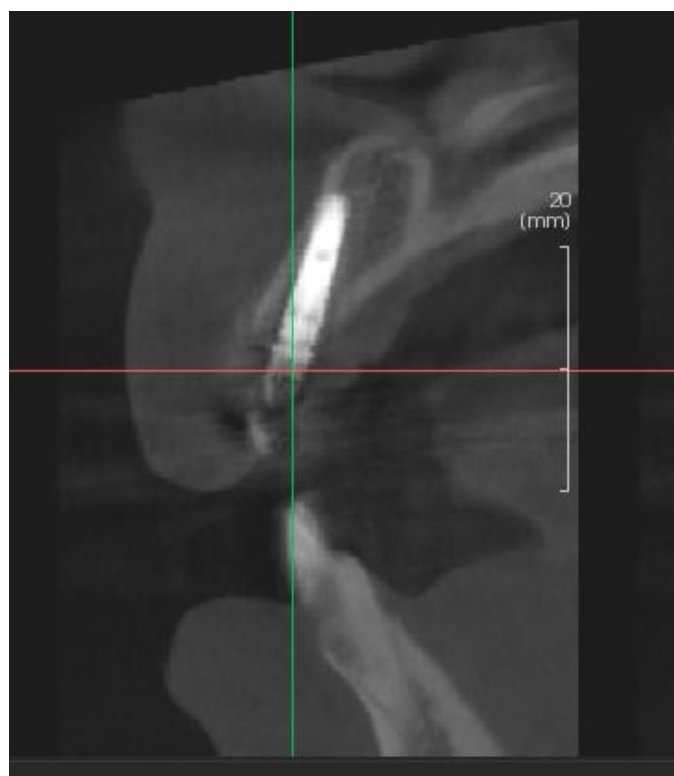
図9



図10



図11



術後CT

Results

術後約2ヶ月で最終補綴物の印象を行い、最終補綴を行う。
歯肉の水平的な幅、垂直的な高さも出ている。



Conclusions

OneGuideを用いたインプラント手術の最大の利点として正確で短時間かつ安全に埋入を行うことができ、術前に作製するプロビジョナルクラウンを直ちに装着することも可能であることである。
そして、最終補綴物の装着までにプロビジョナルクラウンを着脱したのはわずかに1回であり、プロビジョナルクラウンの着脱回数を最小限にすることでインプラント周囲辺縁骨や軟組織の吸収を可能な限り防ぐことができたと考えられる。
またこれは、患者にも外科的、肉体的侵襲が少ない事を意味する。